

大正大学附属図書館

学びと集いを育む



GOOD DESIGN AWARD



世界三大デザイン賞“iF DESIGN AWARD 2022”にて、8号館「総合学修支援施設」が最高賞を受賞！



大学図書館について思うこと

本学の新図書館は、コロナ禍真ただなかの2020（令和2）年11月にオープンしました。時代や社会が激変する中で、高等教育機関として時代の変化に即応できる知識と応用力、実践力を身につけさせることを最優先に考え、図書館と教育施設を複合・統合する新しいタイプの大学図書館を目指しています。この理念は、図書館長が推進するビジョン「創発する学修施設」とも合致するものと確信しています。

本学は、大乘仏教の精神である「智慧と慈悲の実践」を建学の理念として、旧大学令の下、1926（大正15）年に設立された大学です。教育・研究施設のあり方については、開学当初より教員と学生の距離を極力縮めることを基本とし、研究室と図書閲覧室を隣接させることにより、学生の学問に対する興味と関心を大いに発揚してきました。今風に言えば、ラーニングコモンズと研究室との接近で、日常的に研究指導をおこなってきたのです。まさしく「学びのコミュニティ」の実現により、家族的雰囲気の中で師弟が交流、自由闊達な学風が築かれました。今回の改築にあたっては、そうした創立以来の伝統も引き継いでいます。ヒューマンサイズと言われる比較的小さなキャンパスの利点を生かし、メインの図書館を基軸として、学部、学科の研究室とラーニングコモンズとの適度な間隔を保っています。「本」と「人」との融合により新しい知識が生成され、連携の輪を広げることにより、学内の学習ネットワークが形成される。その学びのプラットフォームの拠点が図書館なのです。

この図書館が、先人の残した知識や知恵に学びつつ、真実を探究し、未来を志向し、常に新しい価値を生み出し発信しようとする意欲ある学生たちであふれることが、私たちの理想であり、喜びでもあります。

今、時代はDX推進がキーワードです。すべての「もの」や「こと」がネットワークでつながる時代であるからこそ、学生が図書館に集い、実物を手に取り、議論を交わすことはますます有益なことになります。そこに地域住民の皆さまや地元の高校生たちにも参加してもらうことで、大学ならではの「学びのコミュニティ」を創出することこそが本学に求められている最大のテーマであり、目標であると思っています。



学校法人
大正大学理事長
柏木 正 博

‘学び’と‘集い’を 創発する





本学の図書館が入る建物は、1階にラーニングコモンズを備えた総合学修支援施設として、2020年の8月に仮オープンし、11月にグランドオープンしました。ポスト・コロナを迎え私たちの社会では、これまでの価値観が大きく変化し、人びとのつながりもまた大きく変化しました。そんな転換点にあって、大学図書館はこれまでの取組みを大きく見直し、新たな道を切り拓く必要があると考えています。本学図書館は、ポスト・コロナに向けて、フォーラムの開催や「学びのコミュニティ」をはじめとした学修支援など、さまざまな取組みを展開してきました。

また現在、多くの地域の方が本学の図書館を利用いただいています。以前より本学の図書館は地域に開放しておりました。地域に根ざした大学図書館としての在り方は、本学の建学の理念である『智慧と慈悲の実践』に基づいています。社会においても人びとが一層集い合う場が求められています。

そのような中、本学の図書館は、包摂的な図書館でありたいと考えています。さまざまな状況の利用者にとって『学ぶこと』は『生きること』につながります。自ら学ぶことを通して、生きる力が引き出されてきます。私たち一人ひとりには弱い存在であり、だからこそ、支え合う必要があります。そして、支え合うためには、集い合う場が必要です。

これからも本学図書館は、社会の変化にも敏感でありたいと考えています。社会の小さな変化を見逃さず、対応すること。一方で、変化のスピードに惑わされず、何が大切であるかを見極めていくことを大切にしていきたいと思います。



大正大学附属図書館長
教職支援オフィス 教授
稲井達也

めざす図書館像

- 学生相互に、あるいはさまざまな人々が交流し、学び合うことを通して、新たな文化を創造するとともに、一人ひとりの物語を生み、人生を輝きのあるものにする図書館
- 多様性を尊重する社会の実現に向けて、お互いに学び合い、さまざまな価値観を共有・共感し、豊かな知性・感性を育むことのできる図書館
- 新たな共生社会の実現に向けて、地域社会の交流拠点となり豊かな学び合いを通して、お互いの思いや願いを共有できる図書館



4th floor



一人ひとりの時間を大切にする サイレント・スペース

最も奥まった場所、それが4階‘本の森’です。
書架は専門書を中心に展開しています。静かな環境の中、
学修や研究に集中することができます。

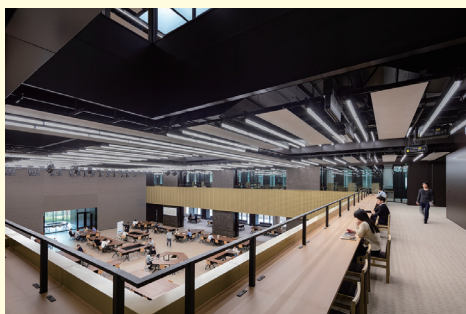
3rd floor



本の豊かな世界に入り込み、 充実した時間を過ごすスペース

2階・本の路から奥の階段を進むと、そこは3階‘本の閃(ひらめき)’です。このフロアには個性的な書架である4つの
‘本の響(ひびき)’があります。それぞれのコンセプトにより
本が響き合い、広くて深い本の豊かな世界へ誘います。

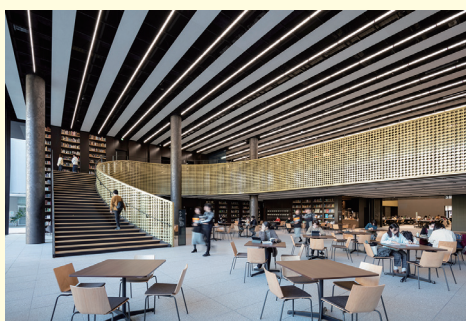
2nd floor



本に誘われ、それぞれが思い思いに ひとときを過ごすスペース

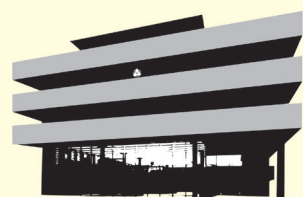
1階のラーニングcommonsを見下ろす‘本の路(みち)’が
囲んでいます。多数の閲覧席があり、さまざまな受賞作品な
どの本を手し、ゆっくりと過ごすことができます。

1st floor



学生や市民が行き交い、新たな文化を 創造するサード・プレイス

1階の‘本の街’はラーニングcommonsと自由に使えるカフェ
スペースがあり、まさに人びとの‘交差点’です。人と学び
が出会い、新しい自分を磨き上げていく場所です。そして、
学生、市民、教職員が集い、語り合い、学びと出会いを広
げていく場所でもあります。ワークショップやイベントな
ども実施しています。



1st floor

豊かな学びと賑わいを創り出す ‘本の街’と‘ラーニングcommons’

ラーニングcommonsとカフェを併設する‘本の街’は、学生、教職員、地域の人びとや生徒が集い、語り合い、学び合うスペースです。

図鑑・写真などのビジュアル本を展示し、気軽に手に取ることができるようになっています。また、新聞は20数紙を置いています。ここではそれぞれが思い思いに時間を過ごすことができます。学生同士で、親子で、生徒同士で本を手にとって、語り合っ欲しいという願いを込めています。



1階‘本の街’にはさまざまな世代が楽しめる絵本や新聞を壁一面に設置しており、カフェスペースも併設しています。



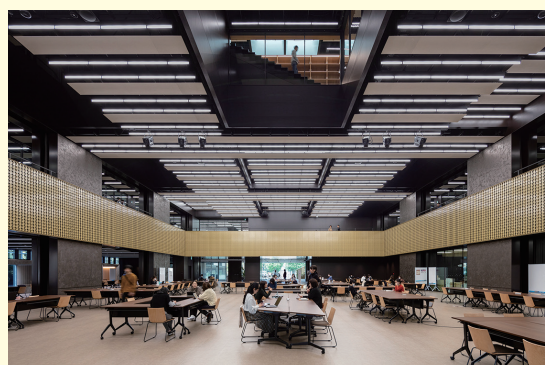
誰もが読書を楽しめる「やさしく読みやすい本」であるLLブックのコーナーを設置しています。



3階の‘本の響’へつながる本を用意し、図書館内へ導いています。



絵本コーナーを設置しています。世代に関係なく、楽しめる空間を創っています。



ラーニングcommonsで自由にグループで学び合うことができます。

2nd floor



本の魅力を発信する 図書館の入口 ‘本の路’^{みち}

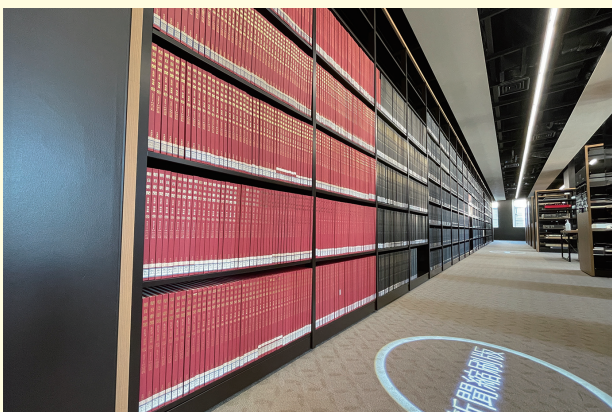
2階は、1階のラーニングcommonsを見下ろす閲覧席があり、その周りを‘本の路’が囲んでいます。さまざまな受賞作品や資格関係の本などの他、文庫・新書のコーナー、AVブース、また企画展示が並んでいます。図書館の入口として、学生に向けて本の魅力を発信する場所です。



新刊や、展示コーナーにて常に本の情報を発信しています。



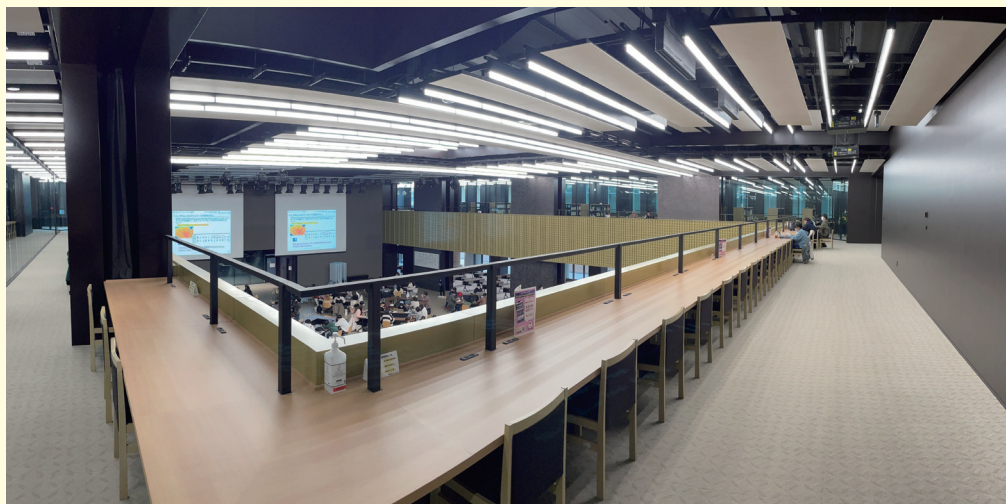
2階は図書館の入口として圧迫感がないよう、低い書架を設置しているため、奥まで見通すことができます。



明治時代からの新聞の縮刷版を配架しています。
時事を調べる大切なツールです。



読書推進の一環として、文庫・新書を集めた書架を設置しています。



1階のラーニングcommonsとつながってる閲覧席は、学生に人気の席です。

3rd floor



多様な世界と向き合う ‘本の閃’ 新たな発想を生み出す

ひらめき

3階は、利用者が語り合い、学び合い、集い合うためのスペースです。グループ学修室や、自由に使用できる学修用ディスプレイの他、ゆっくりとくつろぐためのソファも置いています。

特にこの‘本の閃’は、本を介して学生がさまざまな‘閃き’を持ってもらえるように‘本の響’と言う4つの企画展示を設置しています。このスペースは本学図書館の独自講座‘学びのコミュニティ’でも使用します。このフロアを利用する他の学生にも講師の声や学生の質問の声が届き、刺激を受け合うことができる場所です。



昼と夜で光量が変わり、夜はゆったりと落ち着いた空間にかわります。

ともに高め合う場

3階は、学生の創発活動のため、ディスカッションやグループでの学修を推進するエリアです。

グループ学修室、ガイダンスのできるプレゼンテーションのスペース、グループで利用できる机の他、モニターなども設置し活用されています。



グループ学修室では壁面のホワイトボードが活用されています。



本の響A 学問のイノベーション

専門領域を超え、横断的・学際的な知見を必要とする社会的な課題をテーマとしています。社会的な課題は常に変化し、また、新たな課題も出てくるため、社会状況を見渡して、定期的にラインナップの一部を変えています。学生の発案による子どもの貧困や被災地支援といったポスター発表なども展示しています。

本学の学びは、社会的な接点や実社会・実生活につながる場面が多く、このコーナーは、学生と市民がともに学ぶ場にもなります。



四方を囲む書架は興味関心の幅を広げてくれます。



社会的な課題について集めた書架は、課題も含め多くの学生が利用しています。

安らぎの場

1人がけのソファやバルコニー、自動販売機など休憩するためのスペースを用意しています。



机やイスは自由に動かし、話し合いをすることができます。



自由に話したり、休憩ができるバルコニーがあります。



本の響B マンガ@クールジャパン

「マンガ」を日本の文化「クールジャパン」として位置付けたコーナーです。1960年代を代表する漫画雑誌『ガロ』に掲載された白土三平『カムイ伝』やつげ義春『ねじ式』などをはじめとする古典的な作品や、時代を切り拓いた漫画『ドラゴンボール』や名作『ドラえもん』、ボーイズラブ（BL）作品、英訳された漫画も取り揃えています。本学に特徴的なものとして仏教漫画も取り揃えています。

本学が立地する豊島区内には、区立トキワ荘マンガミュージアムがあることから、PRコーナーを設置しています。

このコーナーには、ヒット作だけではなく、戦後、漫画家たちが営々産み出してきた数多くの名作に触れてもらい、「マンガの文化を次世代へと継承して欲しい」という願いを込めています。



空き時間にマンガを楽しむ学生が多く、いつもにぎわっている空間です。



マンガも日本の文化と考え、授業にも利用されています。

本の響C 本の道しるべ

専門ごとの内容を入門書から専門書まで段階的に並べています。学問の世界を「見える化」しました。このコーナーは、学科の学びへのハードルを低くし、スタートを入門的な地点から始めて、学問のさらに奥まった世界へと徐々に学生を導いてゆく書架です。もちろん、地域の方々や中学生・高校生に対しても、学問の世界へと誘い、豊かな学びへの入口となります。



天井は自然光が入るよう吹き抜けになっており、明るい環境に学生が集まります。



3階の中心に位置するこの場所は学問の世界への「入口」です。



展示コーナーは、広い通路に面し、利用者の目を引きします。



本の響D 文学者 江藤淳・考古学者 斎藤忠の書斎

高書架に囲まれた書斎を思わせるようなスペースに長机と椅子を配置しています。書斎にいるときのような落ち着いた空間が演出されています。

江藤淳氏は慶應義塾大学退職後、本学で教鞭をとりました。没後、著作権継承者の方から、全ての氏の蔵書と原稿やノート、メモなどを寄贈いただきました。アカデミック・commons（13号館）で大切に保管しておりますが、その蔵書の一部をこのコーナーに展示配架しています。

また、本学で長く教鞭をとった考古学者・斎藤忠氏の蔵書も寄贈いただき、その一部を展示しています。



囲まれたスペースであり、入ると1つの部屋のように感じられます。



著書や蔵書の一部を並べています。



3階の中心にありながら、「書斎」を思わせる落ち着いたコーナーです。

4th floor

一人ひとりが学問に向きあい 深淵な世界に分け入る‘本の森’

フロア全体の空間を書架が囲み、あたかも森のように静かなスペースです。静寂な環境の中で、学生一人ひとりが本の奥深さを知り、人間の創り上げてきた知の森の中で学問に向き合います。更に学びを深めるための個人ブースも設置しています。本とともに時間が経つのも忘れて、研究や読書に没入することのできるスペースです。



‘本の森’には特徴のある書架が並びます。



4階閲覧席から見渡す館内は、さまざまな高さの書架もあり、独特の雰囲気を感じることができます。



一人ひとりが学びを深める個室を20部屋設置しています。

13号館 ▶ アカデミック・コモンズの紹介



閲覧スペースを設置しています。



地下書庫には貴重書がある他、多くの資料を収蔵しています。



図書館から広がる学び

学びの拠点となり、新しい創造の場となる



本学図書館は、本からの学びだけではなく、さまざまな「学び」の提供に取り組んでいます。

‘学びのコミュニティ’と言う図書館独自の講座や、公共図書館との共同イベント、高校との高大接続、小中高生のインターンシップの受入も行っています。また地域の学校からの図書館見学会など、学生だけではなく地域利用者へ学びの場を提供しています。

図書館が自律的な学習・学修の場となり、新たな交流の場を創り出し、学修・文化に基づくまちづくりに寄与することを目指しています。

独自講座 ‘学びのコミュニティ’で 学問の領域を越えて、学ぶ機会を提供する

2020年度の授業はオンライン実施となり、大半の学生は通学できない状況が続きました。学修支援、またコロナ禍でのコミュニケーション不足を解消するため、図書館と学修支援の部署で連携し企画が始まりました。学生であれば誰でも参加でき、他学科の学生との交流による新たな学びも生まれるよう意識しています。

現在は、さまざまな学科の教員の協力により、バラエティに富んだ講座が展開されています。



講座により、会場を演出をしています。



3階から4階へつづくスペースでも開催されます。



さまざまな機会を提供できるようにポスターなどで広報しています。



8号館内の礼拝ホールや1階ラーニングコモンズで実施する場合があります。

学外のさまざまな機関とつながり 学びを共有し、深め合う

高大接続の取り組み



高校生が来校し一部授業を実施。



高校生のキャリア教育としての職場体験の様子。

にぎやかな図書館祭の開催



児童も参加できる館内ツアーの様子。



豊島区と共同でイベントも開催しています。
地域の子どもたちも来館します。

地域の学校教育への貢献



たくさんの本の中から、1冊を選びました。



本学職員から図書館の説明を受ける様子。



「学び」と「集い」の図書館に挑む 大学図書館の未来と創造

大正大学附属図書館 発行：大正大学出版会 令和5年9月
ISBN 978-4-909099-81-5 定価本体 2,400円＋税

開かれた大学図書館を目指し、図書館長と職員が図書館への
想いと取組事例をまとめました。

令和5年度 私立大学図書館協会 協会賞を受賞しました。

人びとのサード・プレイスとして 学問知を社会にひらく

本学図書館は地域に開放しており、多くの方に利用されています。中学生・高校生の勉強の場としても活用されています。写真は図書館が1階のスペースを使用し、講演会を開催した際の様子です。図書館が企画したさまざまなイベントがこのスペースで展開されています。



学生と地域の方が参加した講演会。



高校生も参加できる講座を開催



オンラインと対面でも参加可能なSDGsイベントを開催。

建物概要

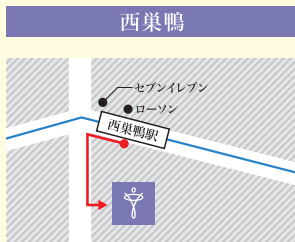
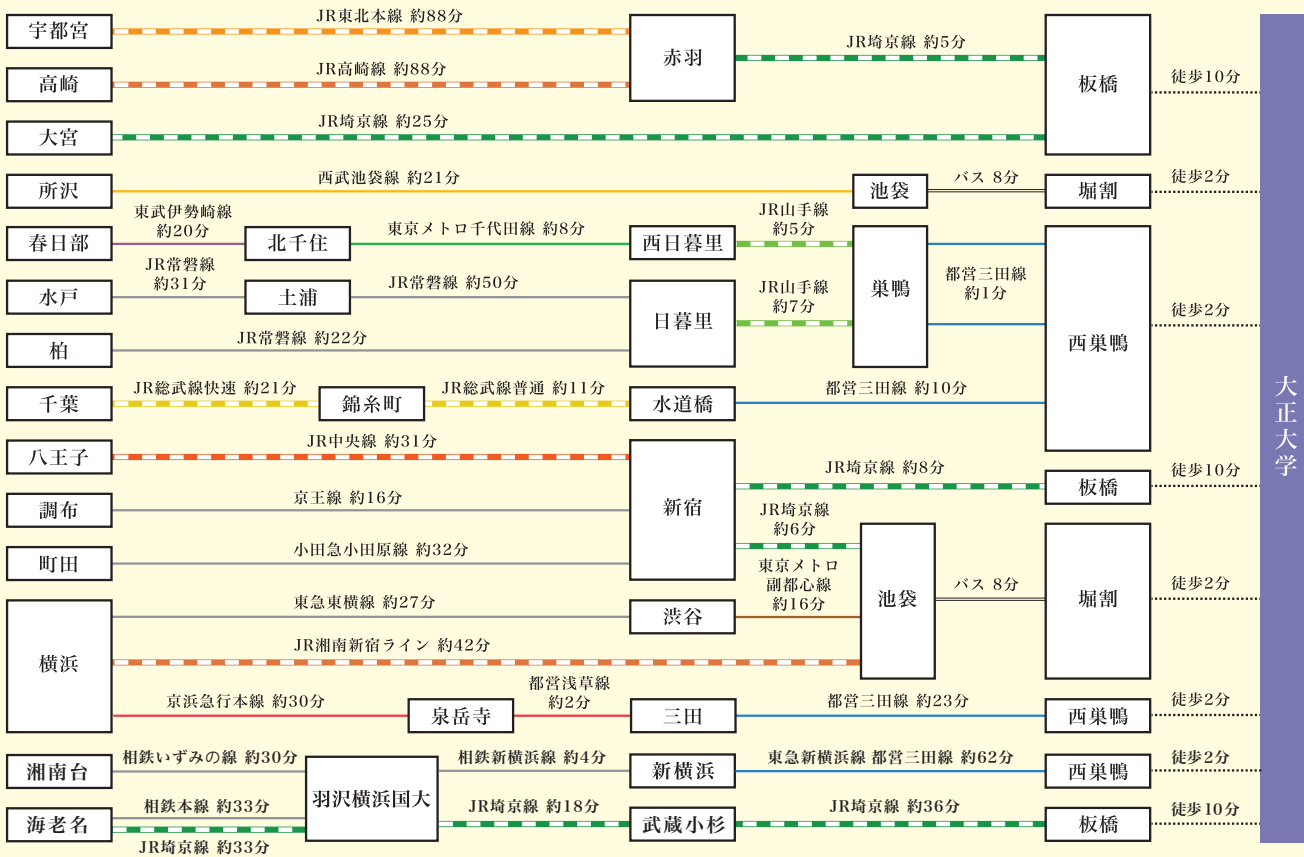
建物名：大正大学 8 号館
所在地：東京都豊島区西巣鴨 3-20-1
建築主：学校法人 大正大学
設計者：大林組
施工者：大林組
構造・規模：鉄骨造 4 階建 延べ 9390 m²
工期：2019 年 3 月～2020 年 7 月

ラーニングコモンズ：170 席
上記式典利用時：800 席
礼拝ホール席数：190 席
図書館閲覧席数：500 席
収納加能冊数
8 号館：30 万冊
13 号館：49 万冊

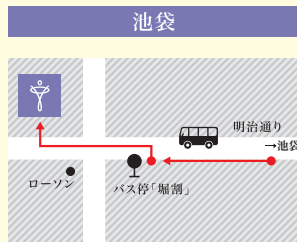
現在蔵書冊数

(令和 6 年度末現在)
図書：663,609 冊
雑誌：86,128 冊
合計：749,737 冊

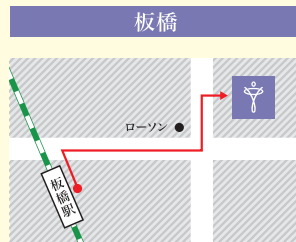
ACCESS



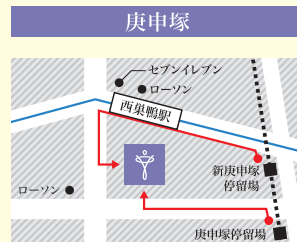
都営地下鉄三田線
西巣鴨駅より徒歩2分



池袋駅東口よりバスで8分
バス停「堀割」より徒歩2分



JR埼京線 板橋駅東口より
徒歩10分



東京さくらトラム(都電荒川線) 庚申塚停留場
または新庚申塚停留場より徒歩7分

主要都市直結のアクセス

キャンパスから徒歩2分の都営地下鉄三田線「西巢鴨」駅や、バスで8分の距離にある「池袋」駅を起点に、都心へのアクセスは抜群。授業後の移動が便利な立地で、充実した大学生活を送ることができます。



「渋谷」駅まで 36分

都営地下鉄三田線西巢鴨駅 --- JR山手線巢鴨駅 --- 渋谷駅



「新宿」駅まで 29分

都営地下鉄三田線西巢鴨駅 --- JR山手線巢鴨駅 --- 新宿駅



「横浜」駅まで 68分

都営地下鉄三田線西巢鴨駅 --- 内幸町 --- 新橋 --- 横浜



お問い合わせ
大正大学附属図書館

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

☎ 03-3918-7311 (代表)

www.tais.ac.jp/

